

洗濯板、しちりん、炭火アイロン…。今では、日常的にあまり使われなくなったこれらのものを、子どもたちが、実際に使ってみる体験学習を文化の森で行っています。屋外での洗濯は、時には雪が降る中で行います。冷たい水の中に手を入れることさえもできない子どもたち。顔をしかめながら、やっとの思いで靴下を洗い、終わればこちらで準備しておいたぬるま湯に冷え切った手を急いでつけて、ひと心地ついています。

「昔は、こんな寒い日でも外で家事をしとったんやね」「大変やけど、洗濯機で落ちなかった汚れが落ちたからすごい」体験を終えた子どものつぶやきから、湧き出る思いが伝わってきます。

まゆの家という「場」で「人」と「もの」に触れながら、子どもたちは、昔の暮らしにタイムスリップしています。